

イデックスオイルレポート ~For a month~

株新出光

【月次概況】

●第1週、8/2のWTI原油は、先週比ドル3.64安の73.52ドルとなりました。パレスチナのイスラム組織ハマスの最高指導者ハニヤ氏が7月31日、滞在先のイランで、イスラエルによるとみられる攻撃で死亡したことで、前日の相場は中東情勢緊迫化への懸念から4%超の上昇を演じた。現時点で石油の供給混乱が生じる可能性が高まっているわけではないとの冷静な見方が広がり、中東情勢を巡る過度な警戒感が後退。

●第2週、8/9のWTI原油は、先週比ドル2.67高の76.19ドルとなりました。朝方発表された最新週の米新規失業保険申請が2週ぶりに改善したほか、市場予想も下回った。これを受け、労働市場が軟化しているとの見方が幾分後退。景気減速懸念を背景とした石油需要減退への懸念がやや緩和され、原油は買いが優勢となった。中東地域の紛争拡大懸念に伴う供給混乱リスクも、引き続き相場の支援要因。

●第3週、8/16のWTI原油は、先週比0.46ドル高の76.65ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)は12日に発表した月報で、中国の需要低迷が見込まれていることを背景に2024年の世界の石油需要見通しを下方修正。国際エネルギー情報局(IEA)も13日公表の月報で、同じく中国の需要低迷を理由に25年の世界の石油需要の伸びに関する見通しを引き下げている。

●第4週、8/23のWTI原油は、先週比1.82ドル安の74.83ドルとなりました。米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が、西部ワイオミング州で開かれている年次経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」で講演し、インフレ鈍化と労働市場の減速を踏まえ、金融緩和へ政策転換する「時機が到来した」と強調。9月の連邦公開市場委員会(FOMC)の利下げ開始を示唆する格好となった。

●第5週、8/30のWTI原油は、先週比1.28ドル安の73.55ドルとなりました。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」が10月から、合意に沿って自主減産分の段階的縮小を開始する見通しと伝わったことも投資家心理を圧迫。ただ、OPEC加盟国のうち、東西政権が対立するリビアの産油量が従来の半分以下に減少しているほか、イラクも生産目標の超過分解消に向けて9月に生産調整を計画しており、下値では両国からの供給減少観測が支えとなった。

8月平均	WTI原油	75.43ドル	前月比	-5.05ドル	為替 1ドル	145.80円	前月差	-7.64円
------	-------	---------	-----	---------	--------	---------	-----	--------

日付	補助金	変動幅	変動幅
8/1~8/7	-27.1	-4.5	-4.5
8/8~8/14	-21.4	-4.5	-4.5
8/15~8/21	-17.1	-4.0	-4.0
8/22~8/28	-20.0	+3.0	+3.0
8/29~8/31	-16.6	-4.0	-4.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格
2024年4-6月C重油決定価格	102,800	104,800 【102,800(メニュー)+2,000(プレミアム)】
2024年7-9月C重油仮価格	106,680	109,060 【106,680(メニュー)+2,380(プレミアム)】
2024年7-9月C重油決定価格		
決定価格 前期比		

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油	A重油
2024年4-6月決定価格	110,200	116,400
2024年7-9月仮価格	114,460	
2024年7-9月決定価格		
決定価格 前期比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/kl	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	24/7	9桁速報	88,326	87.93	159.70	1,783
	24/8	最終予測	82,468	86.43	151.69	-5,858
	24/9	展望	78,133	81.72	152.00	-4,335
	24/10	展望	75,329	80.37	149.00	-2,804

【次世代エネルギー】〈INPEX、豪州で再生エネ開発2000億円 グリーン水素拠点に〉

INPEXは、2030年までに再生可能エネルギー開発に2,000億円以上を投じ、脱炭素化とグリーン水素事業への転換を加速させる戦略を進めています。これは、化石燃料依存からの脱却を目指し、将来のエネルギー需要を満たすための新たなビジネスモデル構築に向けた取り組みです。

まず、INPEXはオーストラリアで太陽光、陸上風力発電所を稼働させ、天然ガス採掘に必要な電力を賄うことで二酸化炭素排出量を削減します。さらに、再生エネ電力で「グリーン水素」を製造し、日本への輸出拠点として展開していく計画です。このグリーン水素は、CO2と合成することで都市ガスの代替となるeメタンを製造可能であり、INPEXの主要顧客である東京ガスへの供給を目指しています。

この戦略は、INPEXの収益の7割を占める天然ガス開発事業「イクシス」の脱炭素化と、将来的なエネルギー需要の高まりに対応するものです。イクシスでは、現在ガス発電機で電力を賄っていますが、将来的には再生エネ電源に置き換えることでCO2排出量を大幅に削減します。また、オーストラリアでの発電所開発だけでなく、電力市場取引や小売りの知見を日本にも応用することで、国内の再生エネ事業を拡大していく計画です。

豪州は、日本に近く水素の生産拠点として適しているだけでなく、LNGや石炭での資源外交の歴史も深いことから、INPEXは豪州をグリーン水素生産の拠点として積極的に活用していく戦略です。今後のエネルギー需要の拡大を見据え、INPEXは再生可能エネルギーへの投資を拡大することで、収益源をシフトし、脱炭素化社会への貢献と新たなビジネスチャンスの創出を目指しています。

出典:日経電子版 https://www.nikkei.com/nkd/industry/article/?DisplayType=1&n_m_code=011&ng=DGXZQOUC2283S0S4A420C2000000

【9月価格変動要因】

●需要:
・9月以降は不活性だったドライブシーズンも終焉し、燃料需要への先行き警戒感が強まる可能性がある。また米大統領選も本格化する中で米政治・経済の先行き不透明感は強まりやすく、リスク資産は神経質な値動きとなりやすい。

●供給:
・リビアは2020年10月の停戦合意以来、東西で国家分裂状態にある。2024年以降西部政府のバラマキ政策が中央銀行から批判されており、これに対して西部政府は中央銀行総裁の交代を模索していた。ここを東部政府を傀儡とするリビア国民軍に付け入れられ、東部に集中する同国油田の操業を停止し政治的な脅迫に打って出た。
リビアの産油量は日量120万バレル前後で安定しており、世界シェアは約1%。OPECの生産余力を踏まえれば短期的な需給への影響は限定的と見られるが、混乱が長期化した場合には原油価格の上昇要因となりうる。

●リスク資産・金融市場:
・株高を牽引してきた半導体銘柄には高値警戒感も根強く、リスク資産全般の上値の重しとなっている。
ジャクソンホールにおける利下げ方針明確化で金利は低下している一方、景気後退懸念とのシーソーゲームで一方の動きが出にくい状況。
・米7月雇用統計では失業率が4.3%に上昇。サムルールと呼ばれる経験則にヒットし、米景気後退懸念が広まった構図。リスク資産である米国株式は下落、利下げ期待から金利低下。原油は景気後退・需要減退が意識されて下落となるも、一方でドル安はドル建資産の割安感を醸成し、レンジ下限付近で踏みとどまった。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	84	81
Average	78	75
Low	72	69

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	85	82
Average	79	76
Low	73	70

日付	国	9月経済指標カレンダー	日付	国	9月経済指標カレンダー
3	米国	8月ISM製造業景況指数	18	ユーロ	8月消費者物価指数
5	米国	8月ADP雇用統計	18	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)
5	米国	8月ISM非製造業景況指数	18	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
6	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産	20	日本	日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表
6	米国	8月非農業部門雇用者数変化	20	日本	8月全国消費者物価指数
6	米国	8月失業率	20	日本	植田和男日銀総裁、定例記者会見
6	米国	8月平均時給	25	米国	8月新築住宅販売件数
9	日本	4-6月期四半期実質国内総生産	26	米国	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
11	米国	8月消費者物価指数	27	米国	8月個人消費支出
12	ユーロ	欧州中央銀行(ECB)政策金利	30	米国	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、発言
12	ユーロ	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見			
17	米国	8月小売売上高			